



神奈川県立

# 高P連会報

事務局 / 横浜市神奈川区神之木台22番14号 県青少年課神之木台分館内 TEL045-432-5889 FAX045-432-5891  
E-mail kana.koupren@kanagawa-koupren.org 編集・発行 / 神奈川県立高等学校PTA連合会 調査・広報委員会

## 第51回高P連県大会

### 「学び・行動するPTA」

2013・11・30 / パシフィコ横浜

## 講演感想

第51回高P連県大会は、会場を昨年の県立音楽堂からパシフィコ横浜に移して11月30日(土)に開催されました。主催者である安達秀子会長

の挨拶ののち、来賓を代表して、県教育委員会教育長の代理として教育局長安西保行様、校長会会長荒木高司様、(一財)県立高等学校安全振興会理事長相馬孝雄様にご挨拶を頂きました。



更に、遙々青森よりご参加いただいた全国高P連会長相川順子様から本県のPTAの取り組みにお褒めの言葉も含まれたご挨拶を頂きました。



表彰式では、昨年度まで高P連にご尽力いただいた方々に感謝状が贈呈され、昨年度まで二年間県高P連会長を務められた柳川秀史様が、受賞者を代表して謝辞を述べられました。

講演は永年に渡り精神科心理カウンセラーをやられているヴィヒャルト千佳先生の「まだ間に合う、親としてできること〜これからの社会を生き抜くために〜」でした。小柄な先生とは思えない大きく歯切れの良い口調で、思春期の多感な子供を持つ我々に多くの事を教えてくださいました。

思春期については、多少の個人差はあるもののみんな共通に経験し、時間の経過とともに終わり大人になっていくものだと思っていました。しかし、それぞれの個人差は相当激しく思春期を迎えるまでの「育ち方」の収支決算を行う時期がそれに当たることを初めて知りました。特に乳幼児期には、養育者(男女、祖父母問わず)の「スキンシップ」が最も必要だそうです。

赤ちゃんは触られれば触られるほど脳内のセロトニンという物質の分泌が増えること

が実証されており、そのセロトニンがうつ病やパニック障害等の防止に役立つことを知り、今後生まれてくるだろう?「孫」は、子供たちになんと何と言われようが一生懸命触ってやろうと思いました。また、同じ環境や感覚を共有すること(共有感を持つこと)は家族のみならず今後子供たち(我々保護者も)が社会を生き抜いて行くためには欠かせません。

一時間の講演があつという間に過ぎ、質問も数多く出されました。

先生は神奈川県を中心に講演活動を行っていらっしゃるようです。再会の機会が楽しみな講演でした。



# 研究発表

## ●県立神奈川総合高校パートナーズ

「そーだ学校へ行こう。」

「土曜日に青春するオトナたち」

PTAとは呼ばず、「パートナーズ」という名称での活動が発表されました。

総会は「総会フェスティバル」として参加者増の様々な取組みは大変興味深いものでした。「パートナーズ」の日ごろの活動を事業参観ツアー（これだけでもユニーク）の感想劇で紹介されました。校長先生と語る会は非常に有意義なもので活動に対する学校側の協力のためには不可欠だと思いました。

「パートナーズ」の最もユニークな点は11団体にも及ぶボランティア・ファミリーの存在でしょう。新しい学校に見合う自由で新しい発想のPTAは、まさに単位制の高校ならではのあり、OB参加などは新しい発想の最たるものだと感じました。「パートナーズ」への参加率が延べとはいえ74%に達することは、保護者の熱い気持ちが生徒や学校に通じている証だと感じました。

## ●県立横浜栄高校PTA

「SAKAE 5周年記念

トイレリニューアルプロジェクト」

活発な学校行事が紹介され、特に文化祭の「SAKAE」は大変な盛り上がり伝わってきました。そんな学校にも大きなウィーク・ポイントがありました。「トイレが汚い」ということでした。

そこで創立5周年記念事業として取組んだ「トイレ・リニューアルプロジェクト」について発表されました。既にリニューアルを経験した県内3校を見学し、モデルトイレを作る発想は、生徒の関心を喚起する上で素晴らしかったと思いました。

生徒・保護者・教員が一体となった実際の作業経過が詳細に説明されており、大変な中でもやり遂げた充実感が感じられました。

県内の多くの高校は、老朽化により同じ悩みを抱えていると思われる。このように地道な取組みも学校環境の改善には不可欠であることを改めて思い起こさせてくれた発表でした。

## ●県立小田原高校PTA

「ふれあいトライアングル」

「おあしすは1杯の水からはじまる」

生徒会からの要望があった球技大会中の給水サポートを新規事業にする際の様々な試練を乗り越え成長していく活動とその効果を発表されました。

どうしても単年度任期になりがちな本部と、従来の活動に忙しい委員会が、新しい事業を立ち上げるのは並大抵のことではありません。しかし、子ども達のために、委員会を越えた連合チーム「おあしす隊」が結成されました。

苦勞して立ち上げた「おあしす隊」には運営に様々な工夫が凝らされ、「保護者と保護者」、「保護者と生徒」、「保護者と先生」とのふれあいの輪が「ふれあいトライアングル」になりました。

今後は、地域とのふれあいも交えた「ふれあいピラミッド」という、未来予想図の実現を目指していけるようです。



## 会長のつぶき

神奈川県高P連 会長  
安達 秀子



皆様もよくご存じのように、昨今の私たちを取り巻く社会環境の変化により、子どもたちは私たちが大人社会の影響を受けやすくなっていると感じます。

携帯機器・ネットの普及などにより、いつの間にか私たちの予想もしない悩みやストレスを抱えていることでもあります。このようなこころの問題はともデリケートなことでもあり、なかなかすぐには解決が難しいですが、日ごろから子どもたちのちょっとした変化を見逃さないように気を配りたいですね。

保護者の間でも、お互いのふれあいを築きながら悩みなどを相談して共有することで、よりしっかりと子どもと向き合えるのではないかと思います。

子どもたちは卒業後の進路について、進学か、就職か、自分の夢を追い続けてよいか…いろんな戸惑いが巡っています。子どもたちが自らの将来を考えながらそれぞれの夢や希望を実現できるように、粘り強く今を生きぬく力の育成と健やかな成長を支えて行ける手助けをしていきたいと考えています。

絆という言葉を大事にしつつ、高P連としてこれまでに取り組んできました事業の1つ1つを大切にしながら、新たな課題解決に向けて精一杯努力して行きたいと思っております。

会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 第63回全国高等学校PTA連合会大会

## 山口大会

8月の山口の地に全国の高等学校のPTAが集い、「夢から志へ」のテーマの下、盛大に開催されました。

開会式でのアトラクションでは、地元小学生による朗誦が披露され、小学生の透き通った歌声が会場全体に響き渡り、素晴らしい雰囲気醸し出していました。

ご当地出身の安倍晋三首相のビデオメッセージの後「日本の教育の再生」というテーマで文部科学大臣下村博文氏による基調講演が行われました。今はグローバル社会への対応が充分ではないのでこれからは日本の教育もそれに対応する為国際化への取り組みも進められていくとの事。今こそ、Be ambitious!との言葉が印象的でした。午後の分科会は記念講演と事例発表でした。記念講演は、「アルバイ

トから200億円企業へ」と題した、来賓亭社長の豆田敏典氏のアルバイトから現在に至る成功譚を興味深く拝聴しました。

北海道、東京都、和歌山県、愛媛県の4都道府県のPTAの事例発表も、各都道府県を代表して発表されるだけあり内容も素晴らしく、学校、保護者、地域が生き生きと暮らしていける社会を作り上げていかなければならないと感じました。

今年は7会場分散型の1日大会でしたが、志を感じられた心に残る大会でした。次年度は福井県でお会いしましょう。

(広報・西川悦子)



全国大会山口大会のマーク

## 第58回

# 関東地区高等学校PTA連合会大会

## 埼玉大会

平成25年7月3日(4日)に、埼玉県さいたま市の「大宮ソニックシティ」で開催された、第59回関東地区高等学校PTA連合大会に参加して来ました。

大会のメインテーマは「未来を彩れ人の輪で」子ども達のために「Do Your Best」でした。

大会第一日目はアトラクションから始まり、地元の熊谷高校PTAコーラス「コールあかいらか」と、川口高校書道部の書道パフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。午後からは「子どもの未来を豊かにする親の知恵」と題し、脳外科医の茂木健一郎氏がステージを所狭しと駆け回りながらの講演でした。

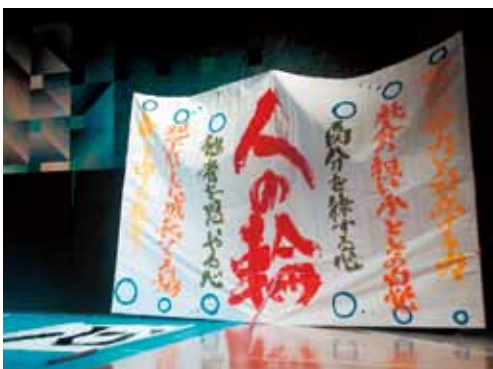
ハーバード大学には偏差値がないことや、脳のリミッタを外すという表現には目から鱗が落ちる思いでした。

大会第二日目は「進路指導とPTA」の第2分科会に参加しました。栃木県立さくら清修高校が「学校との連携を目指して」の発表があり、本校に入学させて良かったというPTA会長の表情がとても印象的でした。

千葉県立小金高校の「小金高校における進路指導とPTA活動」では年4回発行される広報誌やメールによってPTA活動を周知徹底させるやり方に感動を覚えました。

次年度開催は群馬県伊香保で、湯煙立ち上る温泉街を中心に活気溢れる提案や助言が練り上げられることでしょう。

(広報・武田晃)



川口高校書道部による書道パフォーマンス

# 広報紙コンクール表彰式と 健全育成大会を合同で開催

今年度から広報紙コンクール表彰式と健全育成大会を合同で開催しましたが、その経緯について説明します。

例年、広報紙コンクール表彰式は1月下旬に、健全育成大会は2月初旬に開催されていましたが、双方の日にちが近いことや単Pの方々の負担を考慮して、今年度は合同開催を試みました。初めての事なので参加者の皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。今後とも、今回参加された方々のアンケートを参考に活動していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

最後になりますが、今年度も各地区交通大会で選ばれた最優秀賞ポスターを会場に展示しました。

## 健全育成大会、渡部絵美氏の特別講演を聞いて

スケートリンクで華麗な演技をしていた頃と少しも変わらず、とても素敵な笑顔で私たちに一杯の元気を頂けたことと思います。また、留学先での自らの経験談や体験のお話

も、とても前向きに感じました。そして、一児の母でもあり、共感部分が多々あったかと思えます。今回の貴重なお話を各単位PTAで活かして頂けたら、幸いです。

渡部絵美さん、勇気をありがとうございました!!



## 交通安全大会、学生とPTAとの共同開催を10地区全てで実現

今年度の交通安全大会は、県下10地区全てで、高校生とPTAとの共同開催を行なうことができました。

共同開催実現にあたり、各地区の交通安全担当校及び発表校の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

## 発表にあたって

### ● 県立津久井浜高校PTA

「まもりたい命」  
「たしかめよう安全意識」

今回の健全育成大会に於いて、数多くの県立高等学校の中より、発表校の内定を頂いてから決定になるまでのプロセスがとても短く、時間が足りないように感じました。

本校の発表内容をまとめるに当たり、多くの方々にお忙しい中、時間を費やして地域を統括している警察署に何度も足を運んで頂きました。資料の提供を受け、実際に現場にも行き現状を確認しました。それら多くの資料をまとめていく作業にはかなりの困難を要しました。

発表内容においてはPTA皆様の役に立つ、もしくは参考になるよう努めました。

### ● 県立秦野高校PTA

「プロジェクトX」  
「担当者たち」

前年度の役員が残してくれたスケアド・ストレイトのビデオを見て、度肝を抜かれました。発表に向け、何を加えられるのか?と悩む中、自転車安全点検、交通安全教室などを通して、担当者間のやりとりも自然なものになってきました。

そこで直面した通学路問題。発表は意識しつつも、課題に向き合わせるを得ない中、アンケートや現地調査、生徒との意見交換と、次々に導かれていく自分たちの姿にドラマがあることに気づき、プロジェクトX風にとまりました。主題歌「地上の星」を歌う私たちに、もう気負いももらいありませんでした。今回の発表では、平塚・秦野(中)地区での発表に新たな展開を加え、そのありのままをお伝えしました。



発表風景



第37回広報紙コンクールに応募いただき、ありがとうございました。限られた人員と日程、経費をやりくりしながら、より良いものを作りたいと奔走する姿が紙面からうかがえました。PTA広報紙は、我々が作る新聞のように不特定多数のもとに届けるのではなく、保護者向けの媒体です。取り上げるテーマは限られますが、ニーズや意識を共有しやすいのが特徴でしょう。審査を通じて、独自企画や斬新なレイアウトなど編集技術の高さに目が留まりました。その中

から、学校生活の情報にとどまらず、客観的に現状を把握し「問題提起」を行っているかにポイントを置きました。

いまの高校生は、携帯端末やインターネット環境が当たり前のデジタルネイティブ世代です。迅速かつ確実なデジタルツールに比べて、地道に議論を重ねて作り上げる紙媒体は少々面倒かもしれません。しかし、その過程にこそ「広報紙だから伝えられること」を探る楽しみがあるのではないでしょうか。

講

神奈川新聞社  
角田 照司

評



神奈川県立高等学校PTA連合会賞  
光陵高等学校PTA  
神奈川県立高等学校長会賞  
鎌倉高等学校PTA  
(一財)神奈川県立高等学校安全振興会賞  
西湘高等学校PTA  
神奈川新聞社賞  
座間高等学校PTA

銀賞



神奈川県教育委員会教育長賞(最優秀賞)  
川崎高等学校PTA  
神奈川県立高等学校PTA連合会賞  
横須賀高等学校PTA  
神奈川県立高等学校長会賞  
神奈川総合高等学校パートナーズ  
神奈川新聞社賞  
希望ヶ丘高等学校PTA

金賞



(一財)神奈川県立高等学校安全振興会賞  
座間高等学校PTA  
広報紙コンクール審査委員賞  
茅ヶ崎高等学校PTA

特別賞・  
審査委員賞



神奈川県立高等学校PTA連合会賞  
市ヶ尾高等学校PTA  
多摩高等学校PTA  
七里ガ浜高等学校PTA  
大船高等学校PTA  
秦野高等学校PTA  
小田原高等学校PTA  
弥栄高等学校PTA

銅賞

コラム

携帯電話と  
スマホ対策

今や携帯電話は私たちの生活の一部になりました。学生達にとっては体の一部となっていると言ってもいいでしょう。

私達親や先生方の心配は、携帯電話使用にかかわる事件や問題に巻き込まれてしまう事です。

出会い系サイトや詐欺まがいの課金システムの被害者の内、パソコンよりも、携帯電話やスマートフォンを使用した割合が95%以上を占めています(ラインや他のNSNを含む)。まずは適切なファイルタリング設定をする事をお勧めします。インターネットで警視庁のホームページから情報を得るのも良いでしょう。出来れば、学校の合格者説明会の様な親子そろっての場所で、携帯電話会社によるルールやマナーと犯罪に巻き込まれない為の講習や教室を受けると効果も大きいかと思えます(料金はかかりません)。昔から鉄は熱い内に打てと申しますので。

(副会長・佐々木靖)

高P連ホームページ

あっ発見!

見つけたら、ぜひ各ページをご覧くださいね! 各地区での大会の様子、高P連会議報告、トピックスなど随時アップされています。各単位PTA、各地区での活動内容を充実させながら円滑に運用できるような情報を発信していきます。効率的な活動を図るためにぜひご活用ください。また、この会報の内容はホームページにも連携していきます。ご意見・ご提案などお待ちしております。



<http://www.kanagawa-koupren.org>

神奈川 高P連

検索

編集後記

手前味噌かもしれませんが歴代の広報紙と今号は、明らかに他の号と区別がつくはず。

そして読んでみようと思われるはず。私のこの自信は、佐々木氏の、やる気の無いふりをしつつ、目のつけどころが違う工夫。松下氏のスマートな関係各位との見事な交渉。明るく盛り上げながら、地道に努力する武田氏。きっちりとした女性の目線で、仕事をこなす西川氏。類稀な委員達の手によって、広報紙は、生まれ変わりました。

変革は、勇気であり、絆を結ぶ優しさだと、考えます。作成にあたり、委員会事務局の皆様には、ご尽力頂きました。ありがとうございます。

(広報・北村桃子)

# 目配り、気配り、おもてなし

## ～アンケート結果から見たもの～

高P連に3つある委員会の1つが『研修委員会』です。この委員会は、7月7日にパシフィコ横浜で開催した「研修大会」、11月30日にパシフィコ横浜で開催した「県高P連大会」、そして9月から10月にかけて開催した各地区大会と専門教育部会大会の運営が主な仕事です。

今年度の研修委員会は、各大会の準備段階から「参加者視線・主役は参加者」ということを再確認して「目配り、気配り、おもてなし」の気持ちで活動を進めています。

まず取り組んだことは、「参加してよかった」と思っていただけの大会を目指し、課題や改善策の洗い出しのため、これまででの大会アン

ケートをあらためて読み返してみました。

**課題①「開会式、あいさつ、表彰式が長い！」**

↓来賓の方に事前に持ち時間を示しご理解を得たことで、県大会では前年度より短縮できました。また、来賓の紹介方法を簡略化し、役員の紹介を省略したことで一定の成果をあげることができました。

**課題②「会場が分かりづらい、座席が分かりづらい」**

↓来場の際に迷うことのないよう案内係を増員し、一目でスタッフと分かるようスタッフベストを制作しました。

このことで参加者とスタッフのコミュニケーションが取りやすくなり、道案内だけでなく気軽な声かけができ、活気が出たように感じられました。

また、座席に学校名の席札を貼り付け座席を発見しやすくなったことは、たいへん好評でした。その他、現在も継続しておりますが「舞台上の花の必要性」や「危機管理体制」なども課題として検討してまいりました。

今回の県大会のアンケートでは、スタッフに対するお褒めの言葉を多くいただきました。反面、まだまだやるべきこと、また検討の余地も残されていることも事実です。

### ○スタッフに関すること

「スタッフの方が大変親切で快適でした。」「スタッフの方が笑顔で対応されたことがとても印象的だった。」「すべてがスムーズで役員の準備が行き届いていたことがよくわかりました。」



本年度県大会より使用の県高P連スタッフベスト

### ○検討の余地があること、

『DVDに収録して各校に供給してほしい。』『花瓶の花、あの大きい花は必要ですか?』『もう少し時間を短くしてほしい。』『お金を掛け過ぎではないですか?』『開始時刻を遅らせてほしい。』

平成25年度県高P連重点目標の5番目に『広く理解される県高P連活動の推進』というのがあります。研修委員会はこの重点目標とともに高P連の有用性、重要性、必要性、そして「目配り、気配り、おもてなし」の気持ちを極めて活動を進めていく

ので、これからも皆さんのご意見ご要望、またよいアイデアをお寄せいただけたらありがたいです。

(研修・松本一彦)

## 縁の下の力持ち

事務局では、小山事務局長、桑原局長、平賀、田代両非常勤職員で、高P連の窓口として普段は電話やFAXを通して皆様方とお付き合ひさせていただいています。

役員が円滑に活動できるよう、またPTA会員の皆様方のお声も少しでも広く反映されることを目指して、校長会や教育委員会、行政機関や諸団体との連絡調整にも当たっています。



事務局職員  
左から、田代、桑原、小山、平賀

# かながわ教育ビジョンの推進

## 県教育委員会では、明日のかながわを担う人づくりを進めるため、様々な取組みを行っています。

### 「かながわ教育ビジョン」の一部見直しに向けて

県民の皆さんと2年間の教育論議などを行い、平成19年8月に策定した「かながわ教育ビジョン」は、策定から5年以上が経過し、国や県の動向を踏まえて、今後の展開や取組みについて見直しを進めています。見直しに当たっても、県民の皆さんと一緒に進めます。

また、教育ビジョンの見直しにあわせて、今後の生徒数の減少動向を見据えながら、県立高校の果たすべき役割など、県立高校の将来構想についても検討を進めます。

### 神奈川県まなびや基金への寄附のお願い

県では、皆さんからの寄附金を活用して、県立高校のトイレの洋式化など、教育環境の整備を進めています。子どもたちに、より一層快適なまなびの場を提供するため御支援、御協力をお願いします。

寄附の方法等はホームページをご覧ください。

【問い合わせ】

県教育委員会財務課  
電話045-210-8105

まなびや基金

検索

### 魅力ある県立高校づくりに向けて

県では、国際化・情報化が進展する社会や、平成25年度の入学生から年次進行で実施される新しい学習指導要領など、県立高校を取り巻く状況に柔軟に対応していくため、平成23年3月に公表した「こ

れからの県立高校のあり方」で示した方向性に基づき、専門高校の学科改編など、新たな時代の要請に応える教育の推進を行ってまいりました。そして、平成26年4月には多部制定時制高校として横浜明朋高等学校が開校します。

また、次代を担う高校生が国際社会で生きていくために、すべての県立高校において実践的な英語コミュニケーション能力の育成を図るとともに、すべての生徒が日本史を学び、我が国や本県の歴史・伝統・文化に対する理解を深める取組みを進めています。

さらに、確かな学力の向上を図るため、組織的・計画的な授業改善を進めて「生徒が主体的に取り組める授業」や「わかる授業」を展開しています。こうした取組みを通じて県立高校の教育力の向上に努め、魅力ある学校づくりを進めています。

### 「Let's Enjoy!!」健康☆体力づくり

本県の子どもは、全国と比較すると、平均値を下回っています。

子どもの体力は生活習慣との関わりも深いことから、本県では、生活習慣の見直しによる体力向上を目指しています。

そこで、「しっかり朝食、たのしく運動、テレビはひかえて、ゆっくり睡眠」をキヤッチフレーズとして、小・中学生及び高校生の生活習慣の改善に取り組んでいます。学校・家庭・地域が連携して、子どもの体力向上に取り組むことができます。皆さんもご家庭で子どもたちの体力向上に向けて、できるところから取り組んでみてください。

### 平成26年度全国高等学校総合体育大会「煌めく青春 南関東総体2014」開催

本年8月、高校生最大のスポーツの祭典である平成26年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が、南関東4都県（東京、千葉、神奈川県、山梨）を舞台に開催されます。

本県ではハンドボール、ソフトボール、剣道、レスリング、登山、ボクシング、ヨット、フェンシングの8競技が7市町で実施されます。

インターハイは教育活動の一環として開催される大会であり、主役である高校生には選手としてだけでなく、さまざまな場面で活躍できる大会にまいります。詳しくは大会公式ホームページをご覧ください。

南関東総体

検索

### 「いじめ防止対策の推進」

昨年9月にいじめ防止対策推進法が施行され、家庭・地域・学校が連携し、いじめの防止に取り組むことになりました。いじめは人間として許されない行為であり、どの学校でも、どの子どもにも起こり得る問題です。誰もがいじめられる・いじめられる側になる可能性があります。また、いじめをおったり、見てみぬ振りをしたりして、いじめを助長することもあります。インターネットを通じたいじめでは、掲示板やSNSへの誹謗中傷など、本人の自覚のないうちに深刻な状況に陥ることがあります。

いじめの早期発見・早期対応のためには、家庭の理解と協力が必要で、家庭で

# かながわ教育ビジョンの推進

## 様々な取組みを行っています。

は、子どもと積極的にコミュニケーションを図り、子どもの小さな変化を見逃さないことが大切です。また、ネット上のトラブルを防ぐには、家庭での使用ルールを決め、マナーについて話し合うことやフィルタリングによる安全対策の徹底を図る必要があります。

子どもの様子で気になることがあるときには学校に相談し、子どもの気持ちに寄り添いながら、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を果たし、子どもを守り、育てましょう。

### 3033運動



県では、健康で明るく豊かな生活を営んでいただくために、1日30分、週3回、3ヶ月間継続して運動やスポーツを行い、くらしの一部として習慣化する「3033運動」を推進しています。

まずは、少しの工夫と少しの時間で無理なく運動やスポーツを続けるために、日常生活の中に運動を取り入れてみませんか。歩きをやる気に！、事務所をジムに！、忙しい働き盛り世代を対象とした「3033運動講習会」を各学校のPTA研修等でも実施しています。貴校でも、開催してみませんか。ホームページにアクセスを！

3033運動

検索

### 「いじめ110番、不登校ほっとライン」のご案内

神奈川県立総合教育センターでは、いじめや不登校に関する様々な悩みやお問い合わせに応じています。

「いじめ110番電話相談」 電話0466-81-8111 24時間365日受付  
「不登校ほっとライン（電話相談）」 電話0466-81-0185 月曜～金曜 8:30～21:00 土・日・祝日は8:30～17:15（12/29～1/3を除く）

### 高校生ボランティアセンター

平成18年度より高校生ボランティアセンターを設置し、高校生のボランティア活動を支援しています。

今年度は、公募で集まった33人のスタッフで、環境、福祉の2グループに分かれ、県下の高校生が参加できるボランティア活動を企画・実施しました。

■平成25年度活動発表会のご案内  
日時：3月2日（日） 13:30～15:30  
会場：かながわ県民センター5階

高校生ボランティアセンターホームページ  
[http://www.planet.pref.kanagawa.jp/kvol/kvol\\_top.htm](http://www.planet.pref.kanagawa.jp/kvol/kvol_top.htm)

●問合せ／県生涯学習情報センター（かながわ県民センター5階）  
電話045(312)1121内線25006

### 「ファミリー読書」に取り組もう！

県では、ファミリーコミュニケーションの日である「毎月第1日曜日」を「ファミリー読書の日」と位置づけ、本を介して親子のコミュニケーションを推進しています。例えば、親子で一緒に本を読み、感想や意見を述べ合うことは、子どもとのコミュニケーションを図ることにつながり、子ども自身が自分の考えを形成するよい機会にもなります。ぜひ、「ファミリー読書」に取り組んでみませんか。